

農村地域における鳥獣被害について

農林水産省によると、野生鳥獣による農作物被害額は164億円(令和5年度)です。そのうち7割がシカ、イノシシ、サル、クマによって発生しています。鳥獣被害は営農意欲の減退、耕作放棄地・離農の増加などの被害をもたらしており、被害額以上に農村地域に深刻な影響を及ぼしています。

鳥獣被害対策には「3つの柱」が基本になります。第1の柱は、農地周辺等での鳥獣の捕獲などの「個体群管理」です。鳥獣の捕獲は、個体数を減らして被害軽減を図ることができるため、有効な対策です。

第2の柱は、侵入防止柵の設置・管理や追払いなどの「侵入防止対策」です。侵入防止対策は、柵の設置だけでなく継続的な管理が大切になります。

第3の柱は、農作物の残さ等の管理や放任果樹の伐採、緩衝帯の整備などの「生息環境管理」です。被害発生の原因となるエサを減らせば、野生鳥獣の出没が減少します。

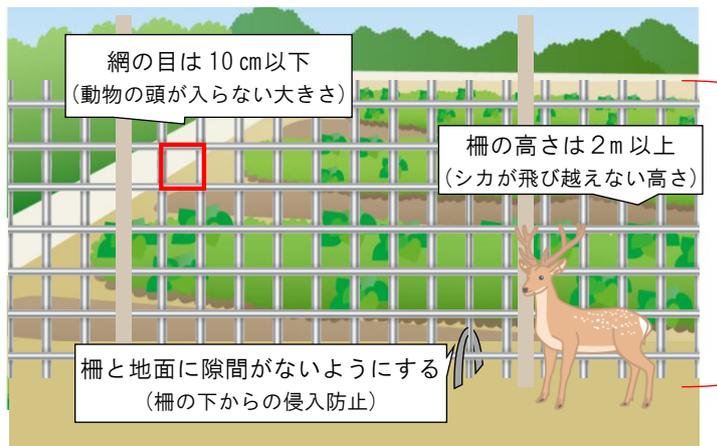
鳥獣被害の防止には、地域が一丸となって上記の3つの柱に取り組むことが重要になります。次ページ以降に鳥獣被害対策の取組例を添付します。

取組例

1. 侵入防止柵

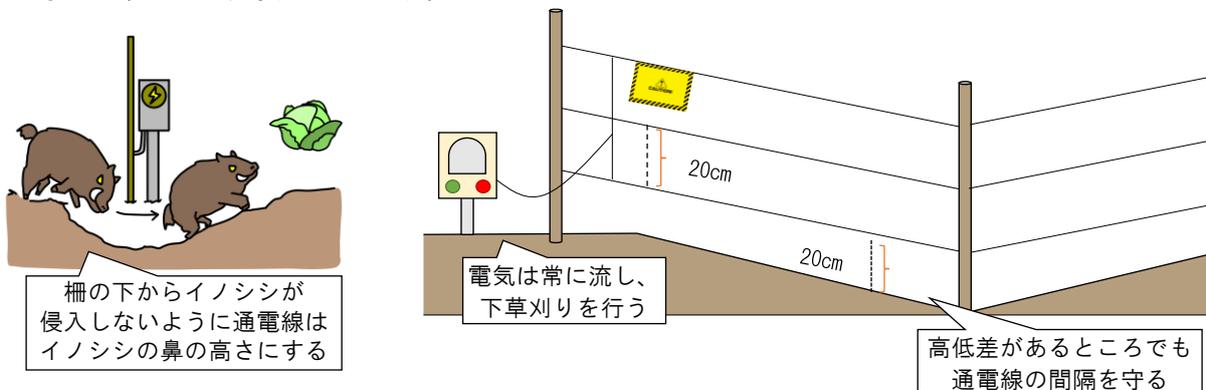
【物理柵】侵入を物理的に防ぐ柵（ネット柵、ワイヤーメッシュ柵、金網柵など）

- 一般的に物理的な柵は、電気柵と比べて漏電の心配がなく、メンテナンスも簡単なので、安心して使用できます。
- 柵の網目は、動物の頭が入らないようにします。シカのみであれば、15cm以下にし、イノシシとシカを兼用する場合は10cm以下にすると便利です。
- シカが柵を飛び越えないようにするためには、柵の高さを2m以上にすることが必要になります。2mの高さでも飛び越えられる場合は、ワイヤーなどを使ってさらに高さを加えることで、飛び越えを防ぎやすくなります。
- シカは網が足に絡まることを嫌うため、ネット網も有効です。



【心理柵】刺激を与え、柵に触れたり近づいたりしないようにする柵（電気柵）

- 電気柵は毛皮の部分に通電線が触れても通電しません。そのため、鼻先に通電線が当たるくらいの間隔にすると効果的です。
- 電気柵に体が触れても通電しないことを学習すると、動物は電気柵を怖がらなくなります。設置をしている時は常に電気を流し、使用しない時期は柵ごと撤去をしてください。
- 通電線に草が触れると漏電の原因や効果が十分に得られないことがあります。そのため、定期的の下草刈りが必要です。



2. 鳥獣害緩衝帯

□農地に侵入ができないよう、周辺の草刈りや間伐を行い、鳥獣害緩衝帯を設置することは鳥獣被害に効果的です。

□ヤギ、ヒツジ、ポニー、ウシなどの放牧を実施するのも効果的です。放牧した動物は、荒廃農地の草刈りに役立ちます。また、一部の地域では放牧の実施でイノシシやシカ、サルなどが警戒をし、鳥獣被害が減った事例も存在します。



図 鳥獣害緩衝帯整備イメージ

3. 新しく栽培する作物について

作物名	特徴等
サンショウ	<p>【原産・分布】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東アジアが原産である。 <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山椒は香辛料として活用できる。葉はあえ物や煮物、実は佃煮や煮物、干山椒として活用できる。 ・ 根が浅く乾燥に弱い一方で湿害にも弱い性質がある。 <p>【育て方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西日が強く当たるほ場への植え付けは避ける。 ・ 鳥獣被害、病害虫の被害は比較的少ないがアゲハチョウが発生しやすい。 ・ 栽培にあまり手がかからないため、他の作物と合わせて栽培が出来る。 ・ 収穫には手間がかかる。 <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 埼玉県ときがわ町では、荒廃農地が増え、シカやイノシシの被害が発生していた。そこで、町の特産品として、サンショウを栽培した。シカの食害やシカに幹を折られる被害が発生したが、電気柵を設置し、解消した。
シソ	<p>【原産・分布】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒマラヤからミャンマー、中国南部が原産地である。 ・ 縄文時代の遺跡から種が出土し、古くから日本にある野菜。 <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤シソはジュースに活用できる。 ・ 簡単に栽培が出来るが、収穫に手間がかかる ・ 温暖で夏季に適度な湿気のある日あたりのよいところを好む。 <p>【育て方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アブラムシやヨトウムシが主な病害虫。 <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 滋賀県大津市では、NPO 法人がボランティアなどと一緒に赤シソを栽培している。赤シソは獣害防止の柵を設置しているが、鳥獣害はほとんど発生していない。
エゴマ	<p>【原産・分布】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シソと同じく、古くから日本にある野菜。

作物名	特徴等
	<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エゴマの種子から搾油が出来る。 ・ エゴマ油をふるさと納税の返礼品にしている地区もある。 <p>【育て方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シソ科のため、近くでシソを栽培している場合は自家採取ができない。 <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シカはエゴマを食べる。イノシシ、サルはエゴマを食べない。シカが出ない地域で田んぼの周りにエゴマを植えたことで、イノシシが来なくなった事例がある。(もともと電気柵は設置していた) <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福島県大玉村では、荒廃農地におけるエゴマの試験栽培を実施している。試験栽培後、生産者によるエゴマの会を設立し、荒廃農地を全体で2.2ha解消した。
花木などの樹木	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木は成長をすると鳥獣被害を受けにくい。 ・ 移植したばかりの苗木にシカの食害が発生した事例がある。 ・ センダン(樹木)を栽培し、緩衝帯を整備した結果、鳥獣被害が軽減した事例がある。 <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府福知山市ではミツマタを山間部の休耕田で栽培している。ミツマタは、観賞用や紙の原料に活用できる。シカにとってミツマタは有毒であり、鳥やネズミによる種子の食害以外ほとんど鳥獣被害は発生していない。

コラム

鳥獣被害対策の基本は「入れない」、「寄せない」、「捕まえる」の3本柱が重要である。

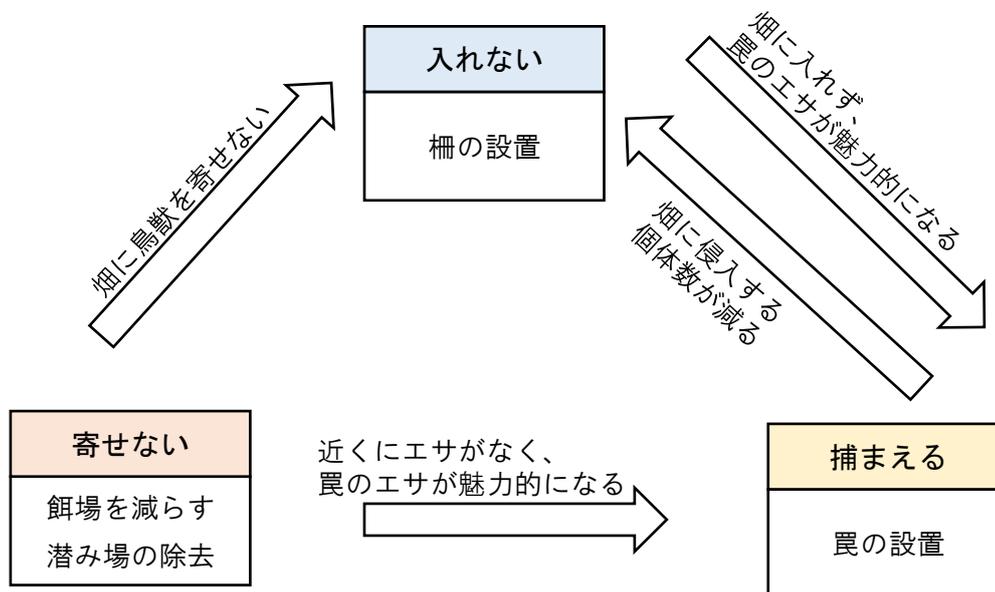


図 鳥獣被害対策の3本柱

① 入れない(侵入防止柵の設置)

物理柵：侵入を物理的に防ぐ柵(ネット柵、ワイヤーメッシュ柵、金網柵など)

心理柵：刺激を与え、柵に触れたり近づいたりしないようにする柵(電気柵)

② 寄せない(周辺環境の改善)

エサになる廃棄農産物、放任果樹を処理する

隠れ場所を除去する。緩衝帯の設置など

【ひそみ場を作らない】

見通しの悪い場所は動物の隠れ場所になりやすい。特に山林と農地の間に雑草が生い茂っている場合、動物が人間に姿をさらすことなく、農地に侵入ができる。

【エサを残さない】

収穫をしていない果樹や法面、畦畔の雑草、イネのひこばえや食品残渣などが周辺にあると動物の餌になるため、作物や植物を放置しない。

③ 捕まえる(有害鳥獣の確保)

罠や銃で有害鳥獣を確保する

参考文献

鳥獣被害の現状と対策 令和7年8月版 農林水産省 農村振興局

ニホンジカ対策マニュアル 牝鹿半島ニホンジカ対策協議会

鳥獣被害被害防止マニュアル【総合対策編】令和5年3月版農林水産省

女性がやればずんずん進む決定版！獣害対策著井上雅央(農文協 2014, 09, 25)

使い切れない農地活用読本(農文協編 2022, 12, 10)